

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	寺子屋オレンジキッズ			
○保護者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置とチームでの支援体制	基準以上の職員配置を行い、支援前後の打合せや翌日の振り返りで情報共有を行っている。児童発達支援管理責任者を中心に支援内容を相談しながら進めている。	打合せ内容や決まったことを簡潔に記録し、誰でも見返せるようにすることで、職員間の理解の差を減らす。パート職員も参加しやすい振り返りの方法（掲示・ノート・アプリ等）を整える。
2	各児童に対するアセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントで家庭・学校の情報を丁寧に聞き取り、児童と保護者のニーズや課題を整理したうえで計画を作成している。支援開始後も日々の記録やモニタリングでニーズの見直しを行っている。	アセスメント項目や記入の深さを共通化し、標準化されたツールの活用について研修を行う。情報の正確性・量が適切かどうかを確認するチェックリストを作り、職員が迷わず評価できるようにする。
3	振り返りとミーティングによる支援の質向上への意識	支援開始前にミーティングを必ず設定し、支援前後や月ごとの振り返りで、こどもの様子や支援の良かった点・課題を共有している。気づいたことをその都度話し合う文化が根付いている。	ミーティング内容を簡単なフォーマットに記録し、後からでも誰が見ても分かる形で蓄積する（現在も取り組んでいる）。良い実践や成功事例を「共有ノート」としてまとめ、新人職員や他職員が学べる仕組みを整える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	アセスメントの質や標準化に対する不安	分析はしているが、収集した情報が正しいか、情報量が適切かどうか職員が判断しづらい。標準化されたアセスメントの活用で職員間でばらつきがある。	アセスメント手順や評価基準をマニュアル化し、事例検討で共通理解を深める。標準化ツールの使い方研修を行い、全職員が同じ視点で評価できるようにする。
2	支援終了後の振り返りのタイミング	本来は支援終了直後に振り返りを行いたいですが、送迎等で時間が確保できず、翌日に回していることがある。結果として、その日のうちの共有が不十分になる場合がある。	現時点で次の日に前日の振り返りを行っており、かつ支援記録に支援の情報をしっかりと記載してある。今後は、質の向上を図るために支援後の振り返りを行える時間を設けている。
3	移行支援の経験や仕組みの不足	卒業・進路変更に伴う移行支援のケースがまだ少なく、十分なノウハウや定型的な流れが確立しきれていない。そのため「このような場面がもっと増えてほしい」と感じている。	これまでの移行事例を振り返り、良かった点・課題を整理して会議の機会を設ける。関係機関との連携会議や見学・実習の機会を増やし、移行支援を日常的な取り組みとして位置付ける。